

---

# そのポケモン、ハチャメチャにつき

デュランダル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そのポケモン、ハチャメチャにつき

### 【Nコード】

N2721Y

### 【作者名】

デュランダル

### 【あらすじ】

これは作者、デュランダルがポケモンになり、いろいろな世界を旅し、世界を救うアドベンチャー！今、その物語が始まるうとして  
いる





## そのポケモン、前世は事故につき1（後書き）

・・・ふう。なんで疲れてるかって？ソル君ボコして帰らせるのが  
でしゅ\*+\*+\*（つA、）

はあ・・・でも更新は続けますよ！

レックス「本当かな？」

ナルク「もしかしてこっちはかませ犬扱いか？」

チツ・・・（なんでいんだよめんどくせえ・・・）（黒激怒）

2人「なんか嫌な予感が・・・」

・・・とりあえず・・・殺す。

この後はご想像にお任せします；

## そのポケモン、前世は事故につき2（前書き）

とりあえず続きです；いやぁー前回はみなさんすいませんね；  
兎に角、これからどんどん書いて逝きますよ！！  
それでは  
どうぞ！

## そのポケモン、前世は事故につき2

目が覚めたら、俺はすべて真っ白のハガンの理のような場所にいた。少しは驚くところ（コドココー！？みたいな。）なのだが俺はなぜこんな所にいるかわかる。（気がする）俺は…死んだ。事故にあつて。

あの日、なぜか占い（テレビの）で俺の運勢ほぼ1位。特に興味があるわけではない。暇つぶしに見ている程度だ。しかし1位に（よい意味で）なつて悪い気分はない。

だからあの日、なんかいいことないかなと思つて外に出てみたらこれだ。だが外に出てちよつと散歩がてらいいこと探しどころじやなかった。騒がしいから行つてみればトラックがなんか暴走したつて言つてもいいぐらいのスピードで走つてた。（足が生えたー！とか言うなよ！そうゆう意味じゃないからな；）

……。それにぶつかった。それだけ言えばわかるだろう。衝突事故で死亡したつて事だ。

……。つて説明してたら変なのが来た。とりあえず聞いてみよう。いろいろと。

「おい、おっさん。あんただれじゃい。」

「ちょ、おっさんて！おっさんじゃねえよ！神だつーの！それに  
おっさんつてゆう年でもねえし」

「じゃあ 辛の人だっけ？」

芸人・ハリセンボンはあるか「字が違うし芸人扱いか！神だって言うてんだろーが！」

「マジd「マジで！！」

・・・うざいけど我慢。

「ほんと？」

「ほんと」

「うそ？」

神「ほんと」

「生きかえれる？」

神「転生ならOK」

「ゲームキャラOK？」

神「詳しいことは質問終わってからだけどOK」

こんな質問が1時間ぐらい続いてその後とりあえず・・・

「うゝゝん・・・」

神「おい、ゝとゝとゝを混ぜるな。」



「とりあえず、どゆこと?」

神「だゝかゝらゝ…はあゝもついいやゝもつ1回いづぞ? 転生OK  
だけどポケモン以外無理だつての! わかる! ?」

「なんで?」

神「しるか! 一番偉い神が言ったことなんだから強制だ!」

「ええゝゝ俺が?」

神「そうだ。なぜかお前だけ」

「期待されてもなあ…」

神「…もうしらねゝとりあえずそのほかにいうことは?」

「えーと…チートまではいかなえぐらいまでだけでいいから強くして?」

神? 「いいお」 ( ^ - ^ )

「あとは…ポケモンつて空の探検隊みたいな世界なわけ?」

神? 「そうだね とにかく最初はプリのギルドみたいなもんだ  
お」 ( ^ ^ ^ )

「…みたいなもんつて?」

神? 「キャラがちがうところがアルかも的な? w w」

「・・・おい」

神「なんだ？」

「なんで紙読んでんだ？&なんか軽くね？&なんかうざい。」

神「一番偉い神が送ってきた紙に書いてあった。」

「なぐる。」

神「あと記憶はOKだお　&名前も決めてるお　って書いてある。」

「名前つて？」

神「なんか魔法で書かれてるんでやばそうだから後回し。」

「強引だな；その神；」

神「そだな；とにかく簡単に説明する。」

・ポケモンはなるまでわからない

・技は練習すればオリ技もできる。（努力次第）

・少しチートあり。（自分はそうだけど相手は・・・稀に。）

・伝説・幻にはなれない。

・必ずしも同じ世界なわけではない



神「ぐわんぶありゅえ〜」

・  
・  
・

## 前言撤回

デュランダル「あ・うん。じゃね。」

神「ちょ、おm」

その後、俺の意識は途絶えた

神「やべ・・・2つ言い忘れた・・・もう無理か・・・」

## そのポケモン、前世は事故につき2（後書き）

余談ですが、俺は、いつもは俺、目上の方には僕、としています。  
別に2重人格ではありません。

本当はこっちが本命です；

コラボしてくださる方募集します！コラボしてくださる方は感想に  
コラボの事、出すポケモン、技、（オリ技可）プロフィールを書いて  
ください！なお、なにか無い限り、続けていきますので、よろしく  
お願いします！！

## そのポケモン、記憶喪失につき1（前書き）

記憶っていつでも前回の事じゃないです。

・・・感想がいきなり2つ・・・感激です！

ミゲールさん、フォックさん、本当にありがとうございます！..

## そのポケモン、記憶喪失につき1

目覚めた俺は・・・え？

ちよ、おま、まで。

ポケモンじゃなかったのか！？何で人間なんだ！？

そんなことを考えていたら1匹のポケモンが話しかけてきた。

その瞬間トンデモナイコトが頭の中でおきた。

いろんな記憶が頭に入ってきた。なに？話してほしいだ！？無理だ！！絶対に！多すぎる！！

・・・とまあ、困難だったが、（説明になってない）どうにか頭の整理をし終わった時、大嵐がおきた。

今乗ってるボートからして、耐えることは100%無理だということとがバカでもわかる。

さらに、俺の近くにいるポケモンに向かって雷が落ちてきた。

なんでかわからない。でも、助けなきゃって思った。

その瞬間、その時に、俺の意識は途絶えた。



## そのポケモン、記憶喪失につき1（後書き）

嗚呼、短いよう……（泣）しかも俺、不幸だよう。はあ……

次回はパートナーの視点です。ほら、あの、海がn……やばい。  
ネタバレだけは阻止せねば！

と、いうわけ後は次回です。

コラボ・評価・感想お願いします！

そのポケモン、記憶喪失につき2（前書き）

更新遲

61

! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !

スランプです……(T-T)

てゆーかやつと1つ思いついただけなんてひどいにもほどがあるよ！ええ？なんとか言わんかい！このクソ神が！（激怒）

神「無理、そして無視。」

・  
・  
・  
・  
・  
殺す。

dfjhKSHrfjhふおてえすぐちふえふやILHE亜sじ  
AHふあsぎふゆいzfgsyfずあげktfZOAERIくいり  
やりやおTWGり!!!!!!!!!!!!

「おお神よ、死んでしまふとは情けない」

ああ、  
疲れたーでもがんばる！

ちなみに今回は、違うポケモンの視点です。（準主人・・・ゲフンゲフン！！）

・・・とナレーションです。忘れるとこだった・・・

とにかく！第4話目までいけました！ワー。

それでは

どうぞ!!

無限 さん、ミゲールさん、フォックさん感想ありがとう御座いました!!

## そのポケモン、記憶喪失につき2

ザザーン・・・ザザーン・・・ここは、とある海岸だ。そして、1匹のポケモンがその海岸の隅に倒れている。

???「う、うん・・・」

そのポケモンは何個もキズがあり、どこからどう見ても歩くのが無理、と言えるほどの大怪我をしている。

???「こ、ここは・・・」

そのポケモンはミカルゲ。いつもは笑っているような顔だが、さすがに今は笑っている状態ではない。

???「う、うう・・・くそ、目が霞む・・・うう・・・もう・・・だ・・・め・・・だ」

そっぴいとドサッ!と倒れてしまった・・・

残っているのはあの大嵐だけだった・・・

その翌日・・・

あの大嵐は去っていき、きれいな青空になっていた。

そしてその街の海岸から戻ってその奥の方にある、1つのギルドがある。

ギルドとは、困っている人<sup>ポケモン</sup>が依頼主となり、依頼をギルドに送り、ギルドがその依頼をやり、依頼主から報酬を貰う場所だ。

そのギルドの入り口にとある1匹のポケモンがいる。

そのポケモンは、足が無く、頭と肩がゆらめいていて目が鋭い。

それは、暗黒ポケモンのダークライだ。名前はダラクという。（名前をどこで知ったかは内緒。）

ダラク「うゝん…どうしよう…」

その迷い方は、ギルドに入るのをためらっているかのようだ。早く入ってしまえばいいのに。

ダラク「でもこれは昔からの夢なんだ、ずっと前から入ろうと思ってたんだ！それにこの宝物だってあるんだ！よし、行こう！」

そうだ！がんばれダラク！負けるなダラク！…ハッ！ゴホンノ／＼ちなみにギルドの入り口は鉄格子でふさがれていて、その前にまで行くと、ポケモンが下から足型を見て（ポケモンの種類によっては足以外も）

確認した後、入れるという仕組みだ。

そしてダラクが鉄格子に近づいた時…いきなり下の方向から声がした。初めてのポケモン（人も？）には精神衛生上まことによるしくない。

???「ポケモン発見！ポケモン発見！」

という声がしたとき、他の声も聞こえた。

「???? 誰の足型? 誰の足型?」

すると先ほどの声がまたした。

「???? 「足型はダークライ! 足型はダークライ!」 (足型なのか?)」

ダラク「わあ!」

ダラクは驚き、サツと隠れてしまった

ダラク「はあ・・・今日も駄目だったか・・・」

どうやら今回だけではなく、違う時も行ったことがあるらしい。

すると不思議な模様もようの石を取り出した

ダラク「この宝物を握り締めていけば勇気も出るかと思ったんだけど・・・だめだったか・・・」

ダラクは石をしまった。そうとう落ち込んでいるようだ。

ダラク「はあ・・・なんで僕ってこんなに臆病者なんだろ・・・ホント情けないよ・・・」

そういうと、ダラクはギルドとは反対の方へ行ってしまった。しかし、ある二匹のポケモンが見ていたことをダラクは知る由も無かつ

た。

???「おいズバット、今の見たかよ」

ズバット「ああ、もちろんだぜドガース」

ドガース「アイツなんか変なもん持ってたけどよ、もしかしてなんかの宝物なんじゃねーか？」

ズバット「そうに決まってるだろ。あんな石は他には見ねーからな。」

ドガース「見たところ、アイツはビクビクしてたからな。簡単に奪えそうだぜ。」

ズバット「そうだな。そんじゃさっさと奪っちゃまおーぜ。」

2人「ヒヒヒヒヒ・・・」

二匹はそう言って、ダラクの後をつけて行った。

そのポケモン、記憶喪失につき2（後書き）

あーやっと書けたー；

疲れたーあ、でも次は早く書き込めそうです！

次回もお楽しみに！



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2721y/>

---

そのポケモン、ハチャメチャにつき

2011年11月9日12時12分発行